

## 安全データシート

## 1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称 : アセトンリムーバー  
 会社名 : 株式会社ビー・エヌ  
 住所 : 〒536-0014 大阪市城東区鳴野西2-7-6  
 電話番号 : 06-6962-2781  
 F A X 番号 : 06-6963-3765  
 緊急連絡先電話番号 : 06-6962-2781  
 メールアドレス : m\_baba@b-n.co.jp  
 推奨用途及び使用上の制限 : 塗料、接着剤の希釈剤

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分2
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分外
	急性毒性（経皮）	区分外
	急性毒性（吸入：蒸気）	区分外
	急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性	区分外
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2B
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分外
	生殖細胞変異原性	区分外
	発がん性	区分外
生殖毒性	区分2	
		追加区分：授乳に対するまたは授乳を介した影響
	特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）	区分3（麻酔作用、気道刺激性）
	特定標的臓器・全身毒性（反復暴露）	区分2（血液）
	吸引性呼吸器有害性	区分2
環境に対する有害性	水生環境急性有害性	区分外
	水生環境慢性有害性	区分外

絵表示又はシンボル：



注意喚起語 : 危険  
 危険有害性情報 : 引火性の高い液体及び蒸気  
 眼刺激  
 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い  
 授乳中の子に害を及ぼすおそれ  
 眠気及びめまいのおそれ  
 呼吸器への刺激のおそれ

長期又は反復ばく露による血液の障害のおそれ  
 飲み込み、気道に侵入すると有害のおそれ

**注意書き：【安全対策】**

すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

使用前に取扱説明書を入手すること。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

容器を密閉しておくこと。

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。— 禁煙。

防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。静電気放電や火花による引火を防止すること。

個人用保護具や換気装置を使用し、暴露を避けること。

保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

容器を接地すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

火花を発生しない工具を使用すること。

屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

環境への放出を避けること。

**【応急措置】**

火災の場合：炭酸ガス消火器、泡または粉末消火器を使用すること。

吸入した場合：空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。吐かせないこと。

眼に入った場合：水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。

皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。

皮膚（又は毛髪）に付着した場合

：直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。

汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。

暴露又はその懸念がある場合

：医師の診断、手当てを受けること。

**【保管】**

容器を密閉して涼しく換気の良いところで施錠して保管すること。

**【廃棄】**

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

**3. 組成及び成分情報**

単一物質又は混合物の区別：単一物質

化学名又は一般名：アセトン

成分名	含有量 Wt%	CAS No.	化審法番号	PRTR法	労働安全衛生法	毒劇法
アセトン	98%以上	67-64-1	(2)-542	非該当	表示・通知対象物質：17	非該当

#### 4. 応急処置

- 目に入った場合：直ちに清浄な水で最低15分間目を洗浄し、眼科医の手当てをうける。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗う。
- 皮膚に付着した場合：汚染された衣類・靴を速やかに脱ぎ、製品に触れた部位を多量の水で洗い流す。石鹸を使って良く洗浄する。外観に変化が見られたり痛みが続く場合には、医師の診断を受ける。
- 吸入した場合：蒸気、ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合には空気の新鮮な場所に移動させ安静・保温に努め速やかに医師の手当てを受ける。無理して吐かせないこと。
- 飲み込んだ場合：水でよく口を洗わせ直ちに医師の手当てを受ける。
- 予想される急性症状及び遅発性症状：  
吸入すると、咳、咽頭痛、めまい、し眠、頭痛、吐き気、意識喪失。

#### 5. 火災時の処置

- 消火剤：粉末・二酸化炭素・泡
- 特定の危険有害性：極めて燃え易い。熱、火花、火炎で容易に発火する。加熱により容器が爆発するおそれがある。火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。引火性液体及び蒸気。
- 特定の消火方法：消火作業は可能な限り風上から行う。可燃性のものを周囲から素早く取り除く。初期の火災には、粉末・二酸化炭素・乾燥砂等を用いて消火する。大規模火災には、泡消火剤などを用いて空気を遮断することが有効である。
- 周辺の火災時は、速やかに容器を安全な場所に移動する。
- 注水は周囲への延焼防止、又は容器の冷却とする。大災害・爆発等の恐れのある時は、直ちに付近の住民を避難させる。
- 消火を行う者の保護：消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

#### 6. 漏出時の処置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置  
：作業の際は保護具を着用し蒸気の吸入や皮膚への接触を防ぐ。風下で作業しない。屋内の場合は、処理が終わるまで十分に換気を行う。
- 環境に対する注意事項  
：流失した製品、洗いが河川等に排出されないように注意する。
- 回収、中和  
少量の場合：乾燥砂・ウエス等に吸収させ、密閉できる容器に回収する。  
多量の場合：盛土で囲い流出を防止し、安全な場所に導き乾燥砂・土等に吸収させる。  
下水道・河川に流入させない処置を講じる。着火源を近づけない。着火した場合に備えて消火器材を準備する。
- 二次災害の防止：すべての発火源を速やかに取り除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。  
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

#### 7. 取扱い及び保管上の注意

##### 取扱い

- 技術的対策：火気・スパーク・高温物等の着火源との接近又はまたは過熱を避けること。  
換気の良い場所で作業し必要な場合は、局所排気装置を設ける。  
静電気対策の為に、装置・機器等の接地を確実に行うと共に、作業衣作業靴は導電性の物を使用する。電気機器類は防爆構造のものを使用する。  
適切な保護具（保護マスク・保護眼鏡・保護手袋等）を着用する。

容器から出し入れする時はこぼれない様にし、その都度密閉する。

注意事項：取扱った後は手等を十分に洗浄する。

食品への付着、接触、混入のおそれのある用途には使用しない。

#### 保管

保管条件：容器は直射日光や火気、熱源を避け、冷暗所に密閉して保管する。

#### 8. 暴露防止措置

品名	管理濃度	許容濃度	ACGIH
アセトン	750 ppm	200 ppm	500 ppm

\*日本産業衛生学会勧告値

設備対策：屋内作業場で使用の場合は、発生源の密閉化または局所排気装置を設置する。

保護具：呼吸器の保護具：有機ガス用防毒マスク・送気マスク

手の保護具：ゴム手袋

目の保護具：保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具：保護服、保護靴

#### 9. 物理的及び化学的性質

物理的状态：形状：液体  
：色：無色液体  
：臭い：特徴的な臭気

pH：データなし

比重：0.791

溶解性：ほとんどの有機溶剤とはいかなる割合にても混合する。

項目	アセトン
沸点	56.1℃
蒸気圧	24.2 kPa
融点	-93.9℃

項目	アセトン
引火点	-21℃
発火点	560℃
爆発限界	2.6～12.8 vol%

#### 10. 安定性及び反応性

安定性：通常の取扱いにおいて安定

危険有害な分解生物：不完全燃焼すれば一酸化炭素がある。

強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。

#### 11. 有害性情報

急性毒性：

経口（区分外）ラット経口 LD<sub>50</sub> 5,800 mg/kg

吸入（蒸気）（区分外）ラット吸入 LC<sub>50</sub> 50,100mg/m<sup>3</sup>/8h

皮膚腐食性・刺激性（区分外）

：ウサギの皮膚に対して刺激性なし。

眼に対する重篤な損傷・刺激性

（区分2B）：蒸気はヒトの眼を刺激する。しかしばく露が止まると刺激性は続かない。

- 呼吸器感作性 : 以上の記述より区分2Bとした。  
 皮膚感作性 : データなく分類できない。  
 皮膚感作性 : モルモットを用いたマキシマイゼーション法試験結果の記述からアセトンは皮膚感作性を有しないと考えられる。
- 生殖細胞変異原性 (区分外) : 経世代変異原性試験 (優性致死試験) で陰性。生殖細胞 in vivo 変異原性試験なし、体細胞 in vivo 変異原性試験 (小核試験、染色体異常試験) で陽性、生殖細胞 in vivo 遺伝毒性試験なしであるが、in vivo での陽性ははっきりとした陽性結果はなく、結果表に「+」と記載されている評価書もあるが、いずれも総合判断としては陰性としている。
- 発がん性 (区分外) : ACGIH グループ A4 に分類されている。  
 生殖毒性 (区分2) : 疫学調査で流産への影響なし。  
 ラットの高濃度ばく露 (11000ppm (20mg/L)) でわずかな発生毒性 (胎児体重減) が、マウスの高濃度ばく露 (6600ppm (15.6mg/L)) で胎児体重減、後期吸収発生率増が報告されている。  
 以上の記述より区分2とした。
- 特定標的臓器・全身毒性 (単回暴露) (気道刺激性、麻酔作用)  
 (区分3) : ヒトへの 12000ppm のばく露で喉の刺激、200mL を飲み込んだ男性に昏睡 (12 時間後意識回復)、12000ppm ばく露した労働者に頭痛、めまい、足の脱力、失神及びラットの吸入試験で中枢神経の抑制が認められている。  
 1190、2400mg/m<sup>3</sup>/6h のばく露で鼻、喉、気管の刺激、1000ppm/4h のばく露で喉の刺激が報告されている。  
 以上の記述より区分3 (気道刺激性、麻酔作用) とした。
- 特定標的臓器・全身毒性 (反復暴露) (血液)  
 (区分2) : ボランティアによる試験で 500ppm、6 時間/日、6 日のばく露群に白血球、好酸球の有意な増加及び好中球の貪食作用の有意な減少が観察されている。  
 ラット、マウスの試験でもガイダンス上限値を大きく超えた投与量ではあるが、ヒトに見られたと同様な血液学的変化が認められた。  
 以上の記述より区分2 (血液) とした。
- 吸引性呼吸器有害性 (区分2) : 動粘性率は計算値で 0.426mm<sup>2</sup>/sec、化学性肺炎の動物データが無いが、C13 以下のケトンである。  
 以上の記述より区分2とした。

## 1 2. 環境影響情報

### 水性環境急性有害性

- (区分外) : 魚類 ヒメダカ LC50 > 100mg/L/96H  
 以上の記述より区分外とした。

### 水性環境慢性有害性

- (区分外) : 難水溶性でなく (水溶解度 1.00 × 10<sup>6</sup>mg/L25) )、急性毒性が低い。  
 以上の記述より区分外とした。

## 1 3. 廃棄上の注意

廃液、容器等の廃棄物は、都道府県の認可を受けた産業廃棄物処理業者に処理委託する。  
 下水道等、生活排水溝へは流さないこと。  
 排水処理、焼却等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び該当法規にしたがって処理を行うか処理を委託すること。

## 1 4. 輸送上の注意

- 国際規則 : 国連番号 1090  
 : 国連品名 アセトン

- : 国連分類 クラス 3 (引火性液体)
- : 容器等級 II
- 国内規制 : 陸上輸送 : 消防法、労働安全衛生法に定められている運送方法に従うこと。
- : 海上輸送 : 船舶安全法に定められている運送方法に従う。
- : 航空輸送 : 航空法に定められている運送方法に従う。
- 特別の安全対策 : 危険物は当該危険物が転落し又は危険物を収納した運搬容器が落下し転倒もしくは破損しないように積載すること。容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。荷崩れ防止を確実に行う。
- 運搬中、危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共にもよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。漏出時の処置は、取り扱い及び保管上の注意に基づく。

#### 1 5. 適用法令

- 消防法 : 危険物第 4 類 第一石油類 危険等級 II 非水溶性液体 (指定数量 200 L)
- 化学物質管理促進法 : 非該当
- 労働安全衛生法 : 施行令別表第 1 第 4 号危険物・引火性の物  
施行令別表第 6 の 2 有機溶剤中毒予防規則第 1 条第 1 項第 4 号  
(第 2 種有機溶剤)  
法第 5 7 条の 2 施行令第 1 8 条の 2 別表第 9  
名称等を表示・通知すべき対象物質 (アセトン)
- 毒物及び劇物取締り法 : 非該当
- 危険物船舶運送及び貯蔵規則 : 引火性液体類、容器等級 II
- 航空法 : 施行規則第 194 条危険物引火性液体
- 海洋汚染防止法 : 非該当

#### 1 6. その他の情報

- 引用文献等 : 堀川化成株式会社安全データシート
- 記載内容の取り扱い : ここに記載された内容は、現時点で入手できる情報・データに基づいて作成してありますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証もなすものではありません。また、記載事項は通常の取り扱いを対象としたもので特別な取り扱いをする場合には用途用法に適した安全対策を実施のうえお取り扱いください。